

日本重力基準網と東北地方太平洋沖地震について Japan Gravity Standardization Net and Tohoku Region Pacific Coast Earthquake

岡村 盛司^{1*}, 宮崎隆幸¹, 河和宏¹, 海老名頼利¹

OKAMURA, Seiji^{1*}, MIYAZAKI Takayuki¹, KAWAWA Hiroshi¹, EBINA Yoritoshi¹

¹ 国土地理院

¹ GSI of Japan

国土地理院では、2011年東北地方太平洋沖地震に伴う重力変化を検出するために、ハイブリッド観測（絶対重力測定 + 相対重力測定）を仙台、奥州、八戸地区で実施した。仙台及び八戸地区は、国土地理院の業務計画の一環である地殻変動の活発な地域を5年以内の周期で観測する計画に基づき、地震発生の前半年前に重力測定していた。その観測データと地震後の観測データを比較すると絶対重力値に変化が見られた。

この変化が、国土地理院で公表している日本重力基準網（JGSN75及び96）の重力値に影響するか検証を行った。

さらにこの地域は、地震により地盤沈下が検出されているにも関わらず、地震前よりも重力値が小さくなっている観測点があった。この変動をディスロケーション理論に基づいた重力変化（大久保修平，1994）のモデル計算で検証を行う予定である。

本発表は、日本重力基準網の影響について検証した結果と、モデル計算によって導きだされた結果についての報告である。

キーワード: 重力, 重力基準網, 2011 東北地方太平洋沖地震

Keywords: Gravity, Gravity Standardization Net, Tohoku Region Pacific Coast Earthquake